

魅力発信！えひめ農業

令和8年1月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、1月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

目次

目次	1
1月のトピックス5選	3
低コスト型のサル捕獲用地獄檻を自作し捕獲実証をスタート	3
観光いちご園が知名度向上に向け新たな取組みを開始	3
久万高原農業を考える研究集会を開催	4
令和8年産「にじのきらめき」の定着に向けた取組み	4
大洲喜多地区の女性農業者組織がネットワーク研修会を開催！	5
えひめ農業	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
粗皮削りによるキウイフルーツ果実軟腐病対策の実証をスタート	6
ぶどうせん定講習会で産地の繋がり強化！	6
来作に向けて「ひめの凜」説明会を開催	7
講習会ではだか麦栽培の中間管理を徹底	7
青年農業者が県外視察合同研修会を開催	8
サル被害対策を高知県の事例に学ぶ	8
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	9
新規花木の導入を目指して視察研修	9
うま茶の産地維持に向けて検討	9
やまのいも「やまじ丸」を道後温泉宿泊施設にPR.	10
土壌分析結果に基づく施肥改善に継続して取り組む	10
■東予地方局 産地戦略推進室	11
オランダ式環境制御技術の効果を実感する声が続々	11
花木生産者が園地で意見交換を実施	11
コーヒーの冬季管理研修会を開催	12
■今治支局 地域農業育成室	12
データに基づいた新たないちご栽培開始	12
種芋生産に向けた新增殖法の収量調査を実施	13
いちご環境制御技術の勉強会の継続開催（3か月）	13
今治冬春トマトの栽培順調	14
県外マルシェに参加し、今治産農作物をPR.	14
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	15
かんきつの出来栄を競う	15
■今治支局 産地戦略推進室	15
バターナッツカボチャの生産推進会議を開催し、安定生産・出荷販売に向けた意識を統一	15
■中予地方局 地域農業育成室	16
なすにおける害虫の天敵導入を推進	16

女性農業者が離島の総合観光施設で学ぶ	16
中予農業応援ボランティアでかんきつ生産者の労働力確保を支援	17
先進地視察研修でBS 資材とスマート農機について学ぶ	17
農業版ジョブコーチ育成研修会を開催	18
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	18
「媛かぐや」販路開拓の新戦略	18
集落営農組織が組織維持の秘訣を学ぶ	19
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	19
雑穀レシピ調理講習会を開催	19
町内小学生が雑穀料理にチャレンジ	20
■中予地方局 産地戦略推進室	20
伊予農業高校と連携した「さくらひめ」PR 活動	20
■南予地方局 地域農業育成室	21
宇和島市女性農業者グループが SNS 活用研修を実施	21
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	21
地元の理解が得られ、水路改修等が事業化へ！	21
ニホンザルの大型捕獲檻を設置	22
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	22
農福連携の拡大を目指し交流セミナーを開催	22
南宇和高校2年生を対象に就農候補者研修会を開催	23
■南予地方局 産地戦略推進室	23
媛小春の収穫進む！安定生産へ実証も進む！	23
道の駅みま野菜売りにニューフェイス登場	24
■八幡浜支局 地域農業育成室	24
一次産業女子が先進技術を学ぶ！	24
農福連携を推進！	25
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	25
落葉果樹の安定生産に向けてせん定指導	25
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	26
農業女子グループが他グループと交流研修	26
■八幡浜支局 産地戦略推進室	26
東京で「媛小春」をPR 販売	26
■農産園芸課 高度普及推進グループ	27
データ駆動型施設野菜栽培実証事業に係るトマト・きゅうり栽培管理講習会を開催	27

1月のトピックス5選

標 題	低コスト型のサル捕獲用地獄檻を自作し捕獲実証をスタート		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年1月16日	場所	西条市吉岡	
指導対象	西条市西部被害集落	連携機関	NPO 法人 西条自然学校	
普及指導内容	<p>○農業用資材等を利用した低コスト型のサル捕獲用大型地獄檻の製作による捕獲実証をスタートした。</p> <p>○大型檻を活用してサルを群れごと捕獲する取組みは、農作物の被害軽減に大きな効果があるものの、市販品は100万円程度と高額であることから、購入費用が大きな障害となり、県下での導入はこれまでに約10基に留まっている。</p>			
結果と今後	<p>○当室が設計した檻は、構造を単純化し骨組みを安価な農業用ハウス資材で作るほか、上部の垂直方向に登れない壁をポリカーボネート板で製作している。その結果、本実証では周囲12mサイズの檻を6.5万円で製作し、従来の市販サイズ(周囲20m)でも10万円程度で自作することが可能になっている。更に農業ハウス用の直管等の廃材を利用する場合には、5万円以下で製作することもできる。</p> <p>○設置の翌日には、サルが警戒感を持たず檻に登る様子が確認されており、今後は群れの捕獲を通して檻の改良や製作手順のマニュアル化等を進める。</p>			
				
骨組みは農業資材を利用		完成した低コスト型地獄檻		檻設置翌日のサル群れの侵入

標 題	観光いちご園が知名度向上に向け新たな取組みを開始		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年10月～令和8年1月	場所	しまなみいちご園(今治市中寺)	
指導対象	農事組合法人サポート中寺	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○農事組合法人サポート中寺は、経営の継承と発展に向け新規部門として令和6年度より「観光いちご園」の取組みを開始し、当室は栽培技術等の指導を行ってきた。</p> <p>○開園2年目を迎え、知名度向上による集客、完熟いちごの有効活用等の課題を抱えており、これらの解決のためにSNS活用による情報発信や補助事業活用等による6次産業化への支援を新たに行った。</p>			
結果と今後	<p>○情報発信を担当する法人職員へ、動画作成やSNSの有効活用による情報発信についての研修を実施したことにより、SNSの更新が定期的に行われるようになった。</p> <p>○完熟いちごの有効活用では、「愛媛県6次産業化チャレンジ総合支援事業」を活用し、冷凍イチゴを商品化するとともに、イチゴジャムをリニューアルした。</p> <p>○2月下旬には、知名度向上に向けグリーン・ツーリズム体験イベントを予定しており、当室は今後も継続して支援を実施する。</p>			
				
			<p>左：ジャムのリニューアルに向け試食を実施</p> <p>中：リニューアルしたイチゴジャム</p> <p>右：商品化した冷凍イチゴ</p>	

標 題	久万高原農業を考える研究集会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和8年1月28日	場所	久万高原町産業文化会館	
指導対象	町内農業者及び関係機関・団体等 (108人)	連携 機関	久万高原地区農業改良普及事業推進協 議会	
普及指導 内容	<p>○農業者や関係機関・団体等が一堂に会し、久万高原地域の農業の課題や振興策について考える契機とするため、「久万高原農業を考える研究集会」を開催した。</p> <p>○基調講演では、講師の水口美鶴氏から、企業組合遊子川ザ・リコピンズにおける特産のトマトを活用した商品開発・販売等の紹介があり、トマト商品の販売を行った。</p> <p>○また、青年農業者連絡協議会及び生活研究協議会からは、白ネギの出荷期間の拡大や雑穀の商品開発・メニュー化等に関する事例発表が行われ、上浮穴高校の生徒からは食農教育に関するプロジェクト発表が行われた。</p> <p>○当班からは、次年度の新規雑穀栽培者の募集と栽培啓発を行った。</p>			
結果と 今後	<p>○参加者からは、トマト栽培や企業組合設立の経緯等について質問があり、地域の農業のあり方を考えるよい機会となった。</p> <p>○当班では、今後も農業を核とした地域づくりや6次産業化等、幅広い視点から久万高原地域の活性化につながる取組みを支援していく。</p>			
				
		<p>左：高校生のプロジェクト発表</p> <p>右：講師がトマト商品を販売</p>		

標 題	令和8年産「にじのきらめき」の定着に向けた取り組み		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年12月～令和8年1月	場所	JA えひめ南本所ほか	
指導対象	—	連携 機関	JA えひめ南	
普及指導 内容	<p>○高温耐性水稻品種「にじのきらめき」は、令和7年に多くのほ場で十分な収量が確保され倒伏もほとんどなかったが、紋枯病やごま葉枯病の発生等の課題も確認されたことから、関係機関と栽培指針の変更を検討した。</p> <p>○JAによる今年産の種子の注文受付時に、ほ場に応じた紋枯病の防除体系やイネカメムシへの対応等について変更を行った栽培指針を配布した。</p>			
結果と 今後	<p>○1月下旬に締め切った種子注分量は、昨年産の2倍程度となる約400ha分となり、種子の確保が心配されたが、JA えひめ南が独自に当品種の育成者権者である農研機構と許諾契約を結び、管内で生産した籾も種子として使用できるようになった。</p> <p>○県内の採種確保体制が整うまでの対応を始め、今後、当室は「にじのきらめき」が地域に定着するための技術指導を行っていく。</p>			
				
		<p>左：関係機関による水稻指針検討会</p> <p>右：R7年産「にじのきらめき」の巡回指導</p>		

標 題	大洲喜多地区の女性農業者組織がネットワーク研修会を開催！		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和8年1月14日	場所	内子自治センター	
指導対象	女性農業者組織会員（19人）	連携機関	大洲市、内子町	
普及指導内容	<p>○組織活動の強化による女性農業者の資質向上を目的として、昨年7月にネットワークを構築した管内の女性農業者3組織が、合同研修会を開催した。</p> <p>○大阪府の「株式会社ウイン企画」代表取締役から、食農教育の現状についての講演を聴講し、その後、各組織会員らが持ち寄った農産物や加工品等を試食しながら意見交換会を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○都市部の子供達と農業の現場をリモートで繋いだ食育活動や、県産品を利用した弁当の販売といった川尻氏の取組みについて、今後、当組織との連携の可能性を探るなど、活発な意見交換が行われ、新たな展開が期待できる絶好の機会となった。</p> <p>○当班は、今後も女性組織のネットワークを活かした新たな加工品の開発やイベントの開催等を支援し、女性農業者組織の活性化を図る。</p>			
<p>【大洲喜多地区の女性農業者組織】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大洲喜多地区生活研究会 ・大洲・内子いきいきネットワーク（女性農業委員で構成） ・ふらいまりい（一次産業女子ネットワークさくらひめ会員で構成） 				
		食農教育について学ぶ講演会		加工品等を持ち寄り意見交換

えひめ農業

標 題	粗皮削りによるキウイフルーツ果実軟腐病対策の実証をスタート		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年1月26日	場所	西条市丹原町中川	
指導対象	キウイフルーツ実証農家（2人）	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	<p>○キウイフルーツでは、貯蔵中の果実軟腐病発生が問題となっていることから、冬期に伝染源となっている樹皮の粗皮を削り除去する実証ほを設置した。</p> <p>○実証に取り組む2農家に対し、前年の被害状況を調査するとともに粗皮削りの方法等を現地で指導した。</p>			
結果と今後	<p>○実証区画は、前年に果実軟腐病の発生が多発したほ場内に設置し、粗皮削りを実施する区を設け、収穫時と貯蔵時に果実軟腐病の発生程度を調査することとした。</p> <p>○また、本処理によりクワシロカイガラムシの被害軽減も期待できることから、併せて発生状況を調査することとしており、今回の実証により粗皮削りの病害虫の被害軽減効果を確認し、その技術の確立、普及を図る。</p>			
				
粗皮削り前		粗皮削り作業		粗皮削り後

標 題	ぶどうせん定講習会で産地の繋がりが強化！		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年1月9日	場所	現地ほ場2か所（西条市内）	
指導対象	ぶどう栽培者（29人）	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	<p>○西条市、新居浜市内のぶどう栽培者を対象に、栽培者同士の技術交流等を図るためのせん定講習会を開催した。</p> <p>○管内では、JAの出荷部会に属さず消費者に直接もしくは産直市等でぶどうを販売する栽培者が多いため、栽培者同士の繋がりが薄く、共通の栽培指針も無いことから、当室が講習会を開催し、作成した栽培指針と防除暦を配布して周知を行った。</p> <p>○講習会では、せん定方法やせん定後の管理、黒系ぶどうにおける着色不良の改善策などについて説明した後、シャインマスカットの成木と幼木でせん定の実演を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「生産者同士のつながりができてよかった」「次回もぜひ参加したい」との声があり、今後の交流にも意欲的な姿勢が伺えた。</p> <p>○当室では、今後も定期的な講習会や巡回を通して栽培者の技術向上を支援していく。</p>			
				
ぶどうの栽培管理について説明		せん定作業の実演		せん定後のぶどう樹

標 題	来作に向けて「ひめの凜」説明会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室																																																																																																
年月日	令和8年1月7日～9日	場所	JA 周桑営農管理研修センター																																																																																																	
指導対象	JA 周桑「ひめの凜」栽培希望者 (249人)	連携 機関	JA 周桑 農産園芸課																																																																																																	
普及指導 内容	<p>○「ひめの凜」の新規栽培希望者及び既存の栽培者を対象に、JA 周桑管内6か所で栽培説明会を開催した。</p> <p>○説明会では、「ひめの凜」の品種特性、令和7年産の収量や品質、病害虫発生等の栽培状況を説明するとともに、栽培のポイントとなっている中干し管理や穂肥の施用基準等について説明した。</p>																																																																																																			
結果と 今後	<p>○参加者からは、高温対策や食味サンプルの提出方法等に関する質問が寄せられ、「ひめの凜」栽培に対する関心の高さが伺えた。</p> <p>○「ひめの凜」は、その食味等が評価され年々栽培面積を増やし、管内は県下でも最大の生産地となっている一方で、前作は1等比率が5割程度に留まったことから、4月以降も講習会の開催や個別指導等により良質米生産に向けた栽培管理の徹底を図る。</p>																																																																																																			
 <p>栽培管理の説明</p>		 <p>認定制度の説明</p>		<p>ひめの凜の施肥</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">農産物施肥基準</th> <th colspan="4">JA基準</th> </tr> <tr> <th colspan="4">ひめの凜(目標収量:480~540kg/10a)</th> <th colspan="4">JA周桑 普通期水稲施肥基準</th> </tr> <tr> <th>施肥の種類・時期</th> <th colspan="3">施肥成分量 kg/10a</th> <th>施肥の種類・時期</th> <th colspan="3">施肥成分量 kg/10a</th> </tr> <tr> <td></td> <th>N</th> <th>P2O5</th> <th>K2O</th> <td></td> <th>N</th> <th>P2O5</th> <th>K2O</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基肥(代かき前3日以内)</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>基肥</td> <td>4.2</td> <td>6.2</td> <td>4.2</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>化成肥料444(14-14-14)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>穂肥(出穂前16~18日)</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>追肥</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>PKコンクレス(10-10-10)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>穂肥合計</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>8</td> <td>追肥</td> <td>4.2</td> <td>0</td> <td>5.1</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>NK化成7号(14-0-17)</td> <td>~4.9</td> <td>~5.95</td> <td></td> </tr> <tr> <td>施肥合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>施肥合計</td> <td>8.4</td> <td>6.2</td> <td>11.3</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>~9.1</td> <td>~12.95</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>JA周桑の普通期水稲栽培指針(種作ごよみ)を参考に</p> <p>施肥基準の説明</p>	農産物施肥基準				JA基準				ひめの凜(目標収量:480~540kg/10a)				JA周桑 普通期水稲施肥基準				施肥の種類・時期	施肥成分量 kg/10a			施肥の種類・時期	施肥成分量 kg/10a				N	P2O5	K2O		N	P2O5	K2O	基肥(代かき前3日以内)	4	6	4	基肥	4.2	6.2	4.2					化成肥料444(14-14-14)				穂肥(出穂前16~18日)	4	0	4	追肥	2	2						PKコンクレス(10-10-10)				穂肥合計	8	6	8	追肥	4.2	0	5.1					NK化成7号(14-0-17)	~4.9	~5.95		施肥合計				施肥合計	8.4	6.2	11.3						~9.1	~12.95	
農産物施肥基準				JA基準																																																																																																
ひめの凜(目標収量:480~540kg/10a)				JA周桑 普通期水稲施肥基準																																																																																																
施肥の種類・時期	施肥成分量 kg/10a			施肥の種類・時期	施肥成分量 kg/10a																																																																																															
	N	P2O5	K2O		N	P2O5	K2O																																																																																													
基肥(代かき前3日以内)	4	6	4	基肥	4.2	6.2	4.2																																																																																													
				化成肥料444(14-14-14)																																																																																																
穂肥(出穂前16~18日)	4	0	4	追肥	2	2																																																																																														
				PKコンクレス(10-10-10)																																																																																																
穂肥合計	8	6	8	追肥	4.2	0	5.1																																																																																													
				NK化成7号(14-0-17)	~4.9	~5.95																																																																																														
施肥合計				施肥合計	8.4	6.2	11.3																																																																																													
					~9.1	~12.95																																																																																														

標 題	講習会ではだか麦栽培の中間管理を徹底		機関名	東予地方局地域農業育成室																																										
年月日	令和8年1月6日	場所	JA 周桑営農管理センター																																											
指導対象	JA 周桑米麦部会員 (31人)	連携 機関	JA 周桑																																											
普及指導 内容	<p>○JA 周桑管内の栽培者を対象として、はだか麦栽培における中間管理の徹底を図る研修会を開催し、排水対策、除草剤散布等の適期実施について説明した。</p> <p>○本年産のはだか麦は、前作の水稲及び大豆の収穫遅れにより11月中には種できたほ場は6割程度に留まり12月以降には種されたほ場も多いほか、11月以降の降雨が少なかったことから、一部では発芽の不ぞろいや生育遅延も見られている。</p>																																													
結果と 今後	<p>○は種時期が遅れたほ場では降雨も少なく生育の不揃いが心配されることから、研修会では踏圧作業等の必要性を周知するなど、生産者に冬期管理の徹底を図った。</p> <p>○当室では引き続き、土入れや中間追肥、春先の降雨に備えた排水対策等の徹底を指導する。</p>																																													
 <p>研修会の状況</p>		 <p>管理の徹底を説明</p>		<p>追肥重点型施肥</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">表 追肥重点型施肥体系の施肥量 (N kg/10a)</th> </tr> <tr> <th>基肥</th> <th>中間追肥</th> <th>穂肥</th> <th>合計</th> <th>JA周桑栽培指針では、化成肥料444(14-14-14)を1回目20kg/10a、2回目20kg/10a、11月中旬追肥15kg/10a、2回目15kg/10a。</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>慣行</td> <td>7</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>追肥重点</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> <p>表 追肥重点施肥体系の各種機別施肥時期の目安</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>播種時期</th> <th>追肥①</th> <th>追肥②</th> <th>穂肥</th> <th>出穂期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11月上旬 (早播・早獲)</td> <td>12月上旬</td> <td>1月上旬</td> <td>2月上旬</td> <td>3月中旬</td> </tr> <tr> <td>11月中下旬 (遅播)</td> <td>12月下旬 (分けつ前)</td> <td>1月下旬</td> <td>2月中下旬</td> <td>3月下旬</td> </tr> <tr> <td>12月 (遅播)</td> <td>1月中下旬 (1葉の展開)</td> <td>2月上旬</td> <td>3月上旬</td> <td>4月上旬</td> </tr> </tbody> </table> <p>多雨、暖冬など、黄化が早まる条件の場合は、早めに1回目の追肥を施用する。今作は、生育が少し遅れている。</p> <p>施肥の説明資料</p>	表 追肥重点型施肥体系の施肥量 (N kg/10a)					基肥	中間追肥	穂肥	合計	JA周桑栽培指針では、化成肥料444(14-14-14)を1回目20kg/10a、2回目20kg/10a、11月中旬追肥15kg/10a、2回目15kg/10a。	慣行	7	0	2	3	12	追肥重点	4	3	3	3	12	播種時期	追肥①	追肥②	穂肥	出穂期	11月上旬 (早播・早獲)	12月上旬	1月上旬	2月上旬	3月中旬	11月中下旬 (遅播)	12月下旬 (分けつ前)	1月下旬	2月中下旬	3月下旬	12月 (遅播)	1月中下旬 (1葉の展開)	2月上旬	3月上旬	4月上旬
表 追肥重点型施肥体系の施肥量 (N kg/10a)																																														
基肥	中間追肥	穂肥	合計	JA周桑栽培指針では、化成肥料444(14-14-14)を1回目20kg/10a、2回目20kg/10a、11月中旬追肥15kg/10a、2回目15kg/10a。																																										
慣行	7	0	2	3	12																																									
追肥重点	4	3	3	3	12																																									
播種時期	追肥①	追肥②	穂肥	出穂期																																										
11月上旬 (早播・早獲)	12月上旬	1月上旬	2月上旬	3月中旬																																										
11月中下旬 (遅播)	12月下旬 (分けつ前)	1月下旬	2月中下旬	3月下旬																																										
12月 (遅播)	1月中下旬 (1葉の展開)	2月上旬	3月上旬	4月上旬																																										

標 題	青年農業者が県外視察合同研修会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年1月27日～28日	場所	大分県宇佐市、大分市	
指導対象	青年農業者（20人）	連携機関	西条市、大洲市、内子町、大洲農業指導班	
普及指導内容	<p>○青年農業者組織が県下他地区の青年と交流を図りながら、先進地の取組みを学ぶ研修会の開催を支援した。</p> <p>○研修会には、大洲喜多地区の青年農業者組織の会員も参加し、大分県農林水産研究指導センターにおいてぶどうの試験研究について学ぶほか、ぶどうの栽培、加工や農泊などを通じて地域活性化や農村再生に取り組む活動や、大規模施設園芸により大葉やスプラウト、かいわれを栽培する生産者のほ場を見学した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、加工品開発や観光農園、動画配信の取組みや、大規模施設栽培における生産管理の工夫や設備等について多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われた。</p> <p>○今後も引き続き、他地区と連携した研修会の開催支援等を通して青年農業者の交流や育成を図る。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>生産者の直売所を見学</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ぶどう栽培について意見交換</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>大葉の施設栽培を見学</p> </div> </div>				

標 題	サル被害対策を高知県の事例に学ぶ		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年1月22日	場所	高知県中土佐町、四万十町	
指導対象	西条地区農業改良普及事業推進協議会、東予東部地域鳥獣害防止対策連携会員外（19人）	連携機関	新居浜市、西条市、JA えひめ未来、NOSAI えひめ	
普及指導内容	<p>○管内のサルの農作物被害が拡大し、対策が急務となる中、西条地区農業改良普及事業推進協議会、東予東部地域鳥獣害防止対策連携会等と合同で、高知県中土佐町笹場地区と四万十町志和地区のサル被害対策状況を視察した。</p> <p>○認定NPO法人 四国自然史科学研究センターの案内で、笹場地区の侵入防止複合柵設置ほ場と志和地区に設置された大型捕獲檻を視察した。</p> <p>○両地域とも地元関係者や高知県鳥獣被害対策専門員が同席し、複合柵設置の過程や利点、大型捕獲檻設置の経緯や場所決定方法等を学んだ。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、複合柵の効果や設置上の注意点、大型檻における餌付け方法等活発な質問や意見が出され、関心の高さが伺えた。</p> <p>○今後は、管内に設置している大型捕獲檻の効果検討等を実施し、サルの被害防止対策の普及を図っていく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>説明を行う葦田副センター長</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>複合柵設置ほ場の視察</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>大型捕獲檻の視察</p> </div> </div>				

標 題	新規花木の導入を目指して視察研修		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和8年1月21日	場所	松山市堀江	
指導対象	花木栽培者（4人）	連携機関	JA うま 中予農業振興課地域農業育成室	
普及指導内容	<p>○四国中央市特産のピットスポラムは、夏季の高温により栽培が難しくなっていることから、技術のレベルアップや新規品目の導入を検討し、花木産地の発展を目指すことを目的に研修会を開催した。</p> <p>○視察先の先進的な花木農家から、園地を巡回しながら周年出荷の栽培体系やせん定・収穫方法等を学んだ。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、昨年は種したミモザアカシア、今年度丹原高校の育苗協力で導入したポポラスなど、新規導入した品目の栽培状況を実際に確認するとともに、熱心に質問を行い、今後の栽培管理方法を習得できた。</p> <p>○今後は、新規導入した品目の栽培管理指導を行い、ピットスポラムに続く「うまの花」の生産拡大に向けた取組みを推進する。</p>			



左：ポポラス出荷後のせん定方法を習得

右：チュウゴクアミガサハゴロモの被害

標 題	うま茶の産地維持に向けて検討		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和8年1月27日	場所	四国中央市新宮公民館	
指導対象	うま茶振興協議会生産部会（9人）	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	<p>○茶産地の維持に向け選定してきた地区内の優良茶園について、QGISを活用したマッピングが完了したので、当部会において今後の活用策等について検討した。</p> <p>○また、当班が霧の森や産業祭においてインバウンド客や県内外の消費者に実施した「お茶需要アンケート」の調査結果を説明し、消費動向等の情報を共有した。</p>			
結果と今後	<p>○優良茶園のマッピングについては、今後、土地の所有者、生産者、面積、収量、傾斜等のデータをリンクさせ、関係者間での茶園情報の共有を進めることとした。</p> <p>○アンケート調査結果から、インバウンド向けの商品開発(ギフトセット等)や手軽に淹れられる茶器の工夫が求められており、今後の方向性等が確認できた。</p> <p>○引き続き、同協議会を中心に茶産地の維持に向けた取組みを推進していく。</p>			



左：QGISを活用したマッピングシステムの説明

右：優良園地のマッピング地図

標 題	やまのいも「やまじ丸」を道後温泉宿泊施設にPR		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和8年1月14日	場所	道後温泉旅館協同組合	
指導対象	道後温泉調理師会役員（9人）	連携機関	JA うま	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○本市特産品の「やまじ丸」の県内利用促進に向け、同組合の調理師会役員に対し、「やまじ丸」の生産状況や特長等を説明し、PR活動を行った。 ○特に「やまじ丸」の特長の強い粘りや「愛」あるブランド产品であること等をPRし、食事メニューの1品として、すりおろしや短冊等の利用について提案した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○今回は、生芋とすりおろした冷凍山芋（一次加工品）をサンプル提供するとともに、各施設における利用方法や試食等に関するアンケート調査を依頼した。 ○アンケートの調査結果を参考に、引き続き、道後温泉宿泊施設での「やまじ丸」の利用促進に向けた活動を継続していく予定。 			



「やまじ丸」とPR資料



役員へ「やまじ丸」の特長等を説明

【やまじ丸】
四国中央市で生産された県育成品種「やまじ丸」をJAうまが商標登録。「愛」あるブランド製品の認定を受けている。

標 題	土壌分析結果に基づく施肥改善に継続して取り組む		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和8年1月22日	場所	四国中央市中之庄町	
指導対象	四国中央青年農業者連絡協議会会員（5人）	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○当協議会は、昨年度から新規参入者定着活動支援事業のプロジェクト活動として、施肥改善及び生産性向上に向けた土壌分析を実施している。 ○当班は土壌分析勉強会を開催し、分析結果をもとにした各ほ場の施肥の改善点等を指導した。 ○会員は、昨年のデータと比較しながら現状の課題を洗い出すとともに、次作以降に投入する肥料や施用量等を検討した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○土壌分析結果から、一部のほ場では各肥料要素が適正範囲に改善されたところもあったが、大部分が、昨年同様に石灰やリン酸等が過剰となっている実態が伺えた。 ○今後は、過剰となっている肥料要素の投入を控えるとともに、昨年同様の肥料を導入し、適正施肥量の把握に努める。 ○当協議会は来年度以降も土壌分析を行い、年次別の土壌の変化等を見える化し、施肥改善に向けた取組みを継続することとしている。 			



左：土壌分析実施（約15点）
右：土壌分析結果勉強会

標 題	オランダ式環境制御技術の効果を実感する声が続々		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年1月8日～9日、19日	場所	西条市玉津、多賀、氷見、石根	
指導対象	いちご農家（20人）	連携機関	JA（周桑、えひめ未来）等	
普及指導内容	<p>○オランダの最先端栽培技術の導入により単収向上を図り、儲かる農業の実現を目指す局予算事業（R7年度～）において、技術を学ぶセミナー（1/19）と技術の定着を図るフォローアップ研修会（1/8～9）を開催した。</p> <p>○農家自ら実施した生育調査や環境計測のデータをもとに、専門家や普及指導員が個々の課題を抽出し、具体的な改善策を提示して指導した。</p>			
結果と今後	<p>○農家からは、「灰色かび病の多発が問題だったが、白黒マルチを敷設したところ、夜間湿度が97%→88%に下がり病気が減った」「日中の乾燥が問題だったが、ハウスの密閉性を上げる工夫をしたところ、最低湿度が60%→70%に上がり、葉のツヤが良くなった」「チップバーンが問題だったが、夕方の高湿度と培土内の塩類集積が原因であるとの指摘を受け、換気方法やかん水方法を改善したところ、チップバーンが出なくなった」など、効果を実感する声が相次いだ。</p> <p>○2月末までセミナーとフォローアップ研修会を実施し、新技術の定着を支援する。</p>			
				
根圏や土の状況を確認する講師と農家		夜間湿度が低下（青：指導前 赤：指導後）		

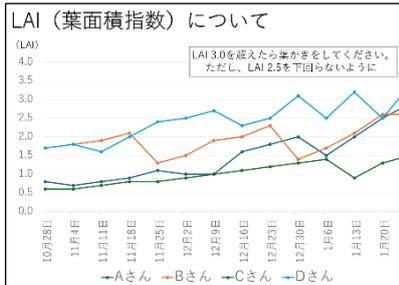
標 題	花木生産者が園地で意見交換を実施		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年1月21日	場所	西条市氷見、新居浜市大生院	
指導対象	東予花木生産者（5人）	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○東予花木生産者ネットワークの活動として、西条市及び新居浜市で花木を栽培するメンバーの園地にて互評会を開催した。</p> <p>○ユーカリ、アカシアなどのほ場で樹姿を観察し、せん定の方法や出荷時期、害虫防除について意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○現在の課題や疑問を相談し、それぞれの知見を共有しながら活発な意見交換が行われた。</p> <p>○参加者からは、栽培方法の悩みを共有し確認できたことで、次作に向けて取り組むことが明確になったとの声が聞かれた。</p> <p>○次回は課題の一つである優良系統の増殖について、挿し木試験を実施し検討を行う。</p>			
				<p>東予花木生産者ネットワーク 東予管内の意欲的な生産者が集まり、会員相互の技術向上を通じて、儲かる花木栽培の実現と花木産地の発展を目指すネットワーク</p>
せん定方法を協議		害虫について意見交換		

標 題	コーヒーの冬季管理研修会を開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年1月14日	場所	月岡園芸（西条市壬生川）	
指導対象	石鎚コーヒー研究会（1人）	連携機関	（株）GMUS	
普及指導内容	<p>○コーヒー苗の定植から約3か月が経過したことから、（株）GMUS の山本代表を招き、冬季の栽培管理について研修会を開催した。</p> <p>○山本氏からは、衰弱した葉の摘葉処理について指導を受けた他、コナカイガラムシの増殖を抑える資材についての情報提供があった。</p> <p>○また、コーヒーに必要な最低温度は維持できているものの、肥料不足により生育が遅延しているとの指摘があった。</p>			
結果と今後	<p>○今回の研修会では、コーヒーは一般の果樹とは異なり、冬季でも生育を停滞させない管理が必要であることを知ることができた。</p> <p>○今後は、3月上旬に鹿児島県と宮崎県において国産コーヒーの先進地視察を実施し、早期成園化に向けた管理技術や有機栽培について情報収集を行う。</p>			
				<p>（株）GMUS（福岡市） 国産コーヒーのコンサル会社。苗木や生産資材の販売、栽培指導、生豆の加工業務などを行う。</p>
摘葉、肥培管理の説明を受ける		重要害虫カイガラムシが寄生		

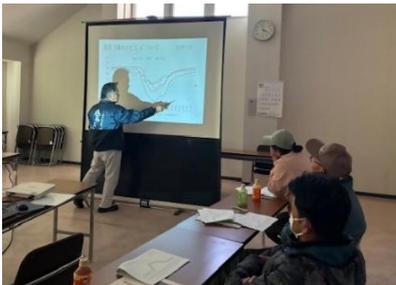
標 題	データに基づいた新たないちご栽培開始		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年1月6日、16日、23日	場所	しまなみいちご園（今治市中寺）	
指導対象	農事組合法人サポート中寺	連携機関	（株）東都興業	
普及指導内容	<p>○農事組合法人サポート中寺は、令和6年度に雇用労働者を主体としたいちご経営を新たに開始したが、適切な栽培管理を行うための技術習得が課題となっている。</p> <p>○当室は、栽培経験の浅い生産者でも高収量が得られるよう、環境制御に必要な計測機器およびハウス内温度を制御する自動換気システムの導入と、データに基づいた理論的な栽培技術の習得を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○当法人の観光農園(20a)は、1月4日に開園し、「紅い雫」など5品種の生育は、草丈が高く頂果房は大果で品質が良い状況であった。</p> <p>○また、環境制御技術の活用により、温度制御に人手をかける時間が昨年の半分以下に省力化された。</p> <p>○今後は、更なる増収を図るためにCO₂施用による光合成の最大化を目指している。</p>			
				
環境測定器の設置		自動換気システムの取扱説明		自動換気装置

標 題	種芋生産に向けた新增殖法の収量調査を実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年1月21日～22日	場所	今治市菊間	
指導対象	さといも栽培農家（6名）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○当室では、さといもの種芋安定生産に向けて、局予算事業を活用し、親芋の腋芽を利用する親芋直接採取増殖法とエチレングス処理技術を組み合わせた「さといも優良種苗新增殖技術」の実証に取り組んでいる。</p> <p>○実証農家と連携して2回目の収量調査を実施し、収穫芋の個数・重量およびり病状況、次年度の種芋への活用が可能かどうかを確認した。</p>			
結果と今後	<p>○加温・加湿にエチレングス処理を加えた親芋直接採取苗区は、収量が種芋区と比較して141%、加温・加湿処理区と比較して203%多い結果となった。</p> <p>○当室は、今年度の実証を踏まえて2月に協議会を開催し、実証内容の結果報告および次年度計画について関係機関と協議し、技術確立を図っていく。</p>			
 <p style="text-align: center;">萌芽処理方法によって異なる収量差</p>				

標 題	いちご環境制御技術の勉強会の継続開催（3か月）		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年1月16日、29日	場所	JA おちいまばり しまなみ共選場	
指導対象	上浦いちご部会 生産者（5人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○令和7年11月から、今治市島しょ部のいちご生産者を対象に、ハウス内環境制御技術に関する勉強会を2週間に1回程度で継続開催している。</p> <p>○本勉強会では、生産者が園地に設置した環境モニタリング機器から収集したデータ（ハウス内CO₂、濃度、温度、湿度）、生育データ（草丈、葉数、葉の大きさ）、気象データを用い、最適な栽培管理方法について指導した。</p>			
結果と今後	<p>○LAI などの指標を用いた栽培指導により、いちごの株づくりを進めてきたことで、2番果の着果負担による「なり疲れ」を防ぎ、順調に生育が進んでいる。</p> <p>○参加者からは「データを基に最適な栽培管理を行うようになった」「近隣生産者の管理を参考にできる」といった声もあり、本勉強会による生産者の栽培への姿勢の変化がみられる。</p> <p>○今後も本勉強会を定期的で開催し、環境制御技術の普及を通じて、いちご栽培環境の最適化および収益向上を支援していく。</p>			



各農家の生育状況をデータ化



データに基づく勉強会の実施



収穫が始まった2番果

標 題	今治冬春トマトの栽培順調		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年1月15日	場所	今治市朝倉、清水地区、トマトほ場	
指導対象	JA おちいまばりトマト部会（7人）	連携機関	(株) タキイ種苗、JA おちいまばり農産園芸課	
普及指導内容	<p>○当室は、部会員とともに、9月に定植した大玉トマトの栽培ほ場の見回りを実施し、収量・品質の向上を目指して導入した2品種の生育状況を確認。</p> <p>○黄化葉巻病の被害軽減を図るため、天敵と防虫ネットを組み合わせた管理方法について指導した。</p>			
結果と今後	<p>○2品種は、大玉で果形が良く生産者の評価は高かった。</p> <p>○黄化葉巻病の発生は見られていないが、天敵（タバコカスミカメ）の数が少なくコナジラミ類が見られるため、薬剤による防除を指導した。</p> <p>○今年度の当部会の出荷実績（11/17～1/18）は、多品種導入等により21t（昨年対比170%）で販売額10,953千円（昨年対比186%）と大幅に増加したほか、部会員は新たに1人増え、面積も計0.7ha（昨年対比107%）となった。</p>			



新品種の栽培状況を確認



J A おちいまばりトマト部会員



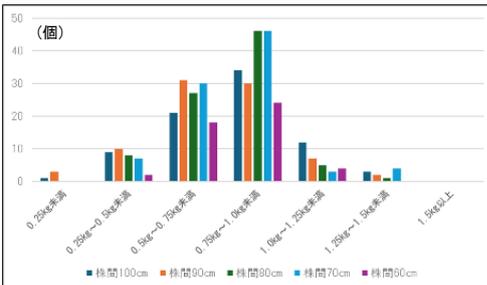
天敵昆虫の実証

標 題	県外マルシェに参加し、今治産農作物をPR		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年1月31日	場所	イオンモール徳島	
指導対象	今治女性農業者（3人） （さくらひめメンバー）	連携機関	徳島県、農地・担い手対策室	
普及指導内容	<p>○今治地区さくらひめメンバー3名が、徳島・高知・愛媛の女性農業者と交流を深めるとともに、自身の農作物・加工品の販売について考えて、実践することを目的として、徳島県が主催したマルシェに参加した。</p> <p>○当室は、消費者の目を引くPOPの作成や商品陳列について指導し、マルシェでは愛媛県産の農作物の説明やPR、生産者のフォローに取り組んだ。</p>			
結果と今後	<p>○参加したさくらひめメンバーからは「消費者と対面して商品を販売することの楽しさや難しさを学べた」「ブランドイメージや商品価値の重要性を痛感した」といった声上がり、自身の農作物・加工品の販売意欲の高まりが伺えた。</p> <p>○当室では、今後とも女性農業者が輝ける場を提供し、女性農業者の活躍を支援する。</p>			



今治産農作物を農業女子がPR

標 題	かんきつの出来栄を競う		機関名	今治支局地域農業育成室しまなみ農業指導班
年月日	令和8年1月9日～10日	場所	越智今治農協岩城支所、弓削支所	
指導対象	上島町かんきつ栽培者	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○JA おちいまばりみかん祭りの地区予選を兼ねて上島町の各地区で柑橘果実品評会が開催され、普及指導員が審査及び品評会見学者への栽培技術指導を行った。			
結果と今後	○岩城地区で29品種111点、弓削地区で27品種104点の出品があった。 ○岩城地区では、はれひめ・温州みかんの出品が例年よりも多く、レモン・せとかの出品が減少。 ○弓削地区では、温州みかん、レモン、八朔の出品が多く、地域の栽培傾向や今年の気象の影響（着色遅れ、秋冬期の少雨）が現れていた。 ○高齢化する地域農業者に対して、出品物の寸評のほか、パネル展示による最新技術の話題提供を行い、栽培意欲の高揚を図った。			
				
		<p>左：JA 岩城支店品評会（果実展示とパネル展示） 右：JA 弓削支店での品評会（果実展示）</p>		

標 題	バターナッツカボチャの生産推進会議を開催し、安定生産・出荷販売に向けた意識を統一		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和8年1月22日	場所	さいさいきて屋（今治市中寺）	
指導対象	バターナッツカボチャ生産者（1人）	連携機関	JA おちいまばり、トキタ種苗（株）、（株）愛媛海産	
普及指導内容	○イタリア野菜生産振興の重点品目である「バターナッツカボチャ」の安定生産・出荷・販売を図るため、生産者及び関係機関による生産推進会議を実施。 ○当室から今年度実施した実証試験結果を報告するとともに、その結果を基に栽培方法や出荷規格等の変更点について協議した。			
結果と今後	○次年度は、今年産の1.5倍以上となる約1.5t～2.0tをさいさいきて屋を通じて（株）愛媛海産に販売することを決定した。 ○定植は5月上中旬頃を目途に行い、1果重の増加を目的とした追肥の実証試験を実施することで、より加工に適した出荷物の標準化を図ることとした。 ○今後は、JA や品種育成・種苗販売を手掛けるトキタ種苗（株）と連携して育苗から収穫までの定期的な栽培指導を行うとともに、（株）愛媛海産と栽培状況や生産見込量の情報共有を進め、安定生産・出荷販売を支援していく。			
				
		<p>左：説明会の実施状況 右：株間試験の結果</p>		

標 題	なすにおける害虫の天敵導入を推進		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年1月8日、27日	場所	松山市、東温市、松前町各地	
指導対象	なす生産者（JA松山市、JAえひめ中央）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）	
普及指導内容	<p>○当室では、管内の主要品目である施設・露地ナスにおいて、難防除害虫（コナジラミ類、アザミウマ類）の天敵「タバコカスミカメ」の導入を推進しているところ。</p> <p>○「タバコカスミカメ」は、温存植物「クレオメ」とセットで導入することで定着率が向上することをJA担当者及び部会役員で認識を共有。</p> <p>○その結果、2JAの育苗センターで「クレオメ」を育苗して、部会員に配布することを申し合わせた。</p> <p>○今回、なす部会員に対し、JAと連携して栽培講習会を開催することにより、防除効果を向上させるポイントやクレオメ苗の定植等について周知を図った。</p>			
結果と今後	<p>○「クレオメ」のは種を2JAのハウスで実施し、は種後の室温を20℃に維持することで、育苗40日目には鉢上げ可能な苗を確保することができた。</p> <p>○今後、施設・露地栽培の定植時期（3～5月）に合わせて、苗を農家に配布予定。</p> <p>○当室では、引き続き関係機関と連携し、管内農家への天敵導入を図る。</p>			
				<p>左：育苗センターでクレオメをは種</p> <p>右：播種40日後のクレオメ苗</p>

標 題	女性農業者が離島の総合観光施設で学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年1月14日	場所	松山市由良	
指導対象	姫たちばな会員（3人）	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○女性農業者組織「姫たちばな」が、松山市興居島の総合観光施設「島の駅ごごしま」を訪問し、地域振興の取組みについて研修した。</p> <p>○当該施設は、令和7年4月に松山市の補助事業を活用し由良港前の建物を改修して開設したもので、韓国を中心に多くの観光客が訪れ、賑わっている。</p> <p>○店内には、島内産のかんきつ紹介や、「紅まどんな」「せとか」を使ったジュースなどを販売しているほか、島内を周遊できるレンタサイクルを整備するなど、地域資源を活かした取組みを展開している。</p>			
結果と今後	<p>○興居島は、フェリーのアクセスが便利で、手軽な「非日常&離島の雰囲気」が観光客に魅力となっているなか、かんきつ等農産物の魅力を地域資源として活用していることが参加した会員からは参考になったとの意見があった。</p> <p>○「姫たちばな」では、3月にかんきつのせん定研修を予定しており、栽培技術の面でも会員の更なる資質向上を支援していく。</p>			
<p>【姫たちばな】 中島地域の女性農業者で構成。技術研修や先進地視察により、資質向上に取り組む他、各種イベントへの参加や、SNSを通して中島の魅力を発信している。</p>				
				<p>「島の駅ごごしま」の外観 韓国語標記もある看板 小瓶も用意されたジュース</p>

標 題	中予農業応援ボランティアでかんきつ生産者の労働力確保を支援		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年1月17日～18日	場所	松山市潮見	
指導対象	生産者（1人）、ボランティア参加者（7人）	連携機関	JA えひめ中央、(株) まちпей	
普及指導内容	<p>○中予管内農業者の農繁期における労働力確保を目的に、マッチングにデイワークアプリを活用した「中予農業応援ボランティア」の仕組みを構築し、令和7年12月から運用を開始した。</p> <p>○当室は、マッチングにより不知火収穫のボランティアが行われたかんきつ生産者の園地を訪問し、ボランティア作業現場及び運用状況を確認した。</p>			
結果と今後	<p>○当日は会社員を中心にボランティア参加があり、アプリ上のマッチング・現地集合から収穫作業・作業後のまちпейポイントの付与といった本ボランティアの仕組みについて、滞りなく運用できていることを確認した。</p> <p>○生産者からは「非常に手軽で今後も利用したい」との声をいただいたほか、ボランティア参加者からは「日頃農作業をすることがないので農業を知る良いきっかけになった」といった感想が寄せられた。</p> <p>○当室では、引き続き現場の状況や課題を踏まえながら、更なる労働力確保支援のため本ボランティアの体制強化及び認知度向上に取り組んでいく。</p>			
				<p>左：かんきつの収穫作業</p> <p>右：スマートフォンを用いたまちпейポイントの付与</p>

標 題	先進地視察研修でBS資材とスマート農機について学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年1月29日	場所	広島県尾道市向島町	
指導対象	—	連携機関	松山地区農業改良普及事業推進協議会 大信産業株式会社	
普及指導内容	<p>○当室では、地区農業改良普及事業推進協議会と連携して、近年、問題となっている農作物の高温障害や農作業の省力化・効率化の課題解決を図るため、「バイオステミュラント資材（以下、BS資材）」を活用した高温対策と最新のスマート農機について視察研修を実施。</p> <p>○研修では、市販しているBS資材の特徴や活用方法等を学ぶとともに、大型ドローンとロボット草刈機の実演によりスマート農機の有効性について理解を深めた。</p>			
結果と今後	<p>○研修参加者からは、BS資材は高温対策として有効と考えられる一方で、導入にあたっては、現地実証を積み重ね、有効な資材選定と最適な利用方法について検証する必要がある等の意見があった。</p> <p>○実演の大型ドローンは、これまでの機種以上に作業労力の軽減が図れ、特に傾斜地の多い果樹園では農薬・肥料散布の大幅な省力化が期待できるとの声があがった。</p> <p>○当室では、引き続き当該協議会を通じて、新たな資材や技術に係る現地実証等を行うなど、関係機関と連携して課題解決に取り組んでいく。</p>			
				<p>左：BS資材の講習</p> <p>右：大型ドローンの実演</p>

標 題	農業版ジョブコーチ育成研修会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年1月30日	場所	松山市潮見	
指導対象	福祉施設支援員等（7人）	連携機関	JA えひめ中央、東温市	
普及指導内容	<p>○農業分野における障がい者の活動となる「農福連携」を推進するため、取組みに関心がある福祉施設等を対象に、農業の知識・技術の習得を図る研修会を開催。</p> <p>○室内研修では、当室から管内における農福連携の取組事例について紹介した後、福祉施設と関係機関で意見交換を実施。</p> <p>○現地研修では、中予地域で農家からの依頼が多いかんきつの収穫作業に関して、障がい者の受入経験が豊富な農家と普及指導員が講師になり、収穫作業時のポイントや園地での農作業安全対策等を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○各施設が抱えている課題を共有するとともに、農福連携や農作業に関する情報を交換し、現地研修では実際の作業イメージを具体化できた。</p> <p>○今回の研修参加をきっかけに、2事業所から農福連携の枠組みへの参画意向が示されたことから、農家からの作業が依頼あれば案内することとなった。</p> <p>○当室では、今後も研修会等を通じ支援員の技術習得を図る等農福連携を推進する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>室内研修及び意見交換</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>収穫作業の注意点の説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>農家による収穫方法の指導</p> </div> </div>				

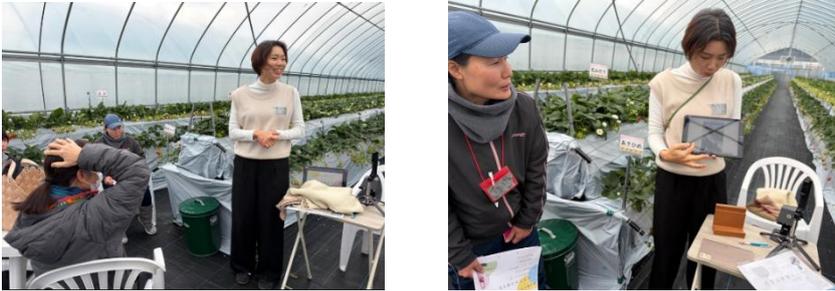
標 題	「媛かぐや」販路開拓の新戦略		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和8年1月19～20日	場所	大阪府大阪市、兵庫県神戸市	
指導対象	—	連携機関	JA 全農えひめ、大果大阪青果（株）、神戸中央青果（株）、（株）媛、（株）ウイン企画	
普及指導内容	<p>○「媛かぐや」産地育成事業（局予算）に取り組んだ結果、媛かぐやの生産量は大幅に増加したものの、認知度不足により販売単価は伸び悩んでいる。</p> <p>○そこで、親芋を食する文化が根付く関西圏をターゲットに、卸売市場や飲食店、専門店へのマーケティングを展開。</p>			
結果と今後	<p>○買い物客からの「調理法が不明」「家庭には大きすぎる」という声を受け、市場関係者からは料理サイトでのレシピ発信や家庭で使いやすいM・Sサイズの重点出荷など、消費者が購入しやすい環境づくりを推進すべきとの助言があった。</p> <p>○また、当班が高級志向の飲食店や販売店にコラボフェアを働きかけた結果、1月下旬以降、順次フェアを開催することが決まった。</p> <p>○今後は、高単価で安定した販路を重点的に確保することで、「高級・専門」というブランド価値を確立し、持続的な生産振興を目指していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>左：コラボ開催中の飲食店「媛」（えひめ食の大使館：大阪市）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右：提供中のコラボメニュー「媛かぐやの竜田揚げ」</p> </div> </div>				

標 題	集落営農組織が組織維持の秘訣を学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和8年1月21日	場所	今治市大西町紺原	
指導対象	伊予地区集落営農組織等連絡協議会 会員（18人）	連携 機関	—	
普及指導 内容	<p>○集落営農の経営安定とネットワーク強化のため、今治市の「有限会社こんばら」で先進地視察研修を行った。</p> <p>○研修では同社代表から、組織維持の鍵として「若い担い手の育成」「高収益野菜の導入」「高性能機械による省力化」の重要性が語られた。</p>			
結果と 今後	<p>○意見交換では、法人設立時の苦労や最新の ICT 技術の活用状況について熱心な説明があり、参加者は組織運営のヒントを多く得た様子であった。</p> <p>○引き続き、会員の課題解決を支援し、経営の安定化を通じて、地域農業の活性化と優良農地の維持に努めていく。</p>			
				
活発に行われた意見交換		さといも収穫ほ場の見学		

標 題	雑穀レシピ調理講習会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和8年1月14日	場所	久万高原町保健センター	
指導対象	町内飲食施設及び関係機関（12人）	連携 機関	久万高原町	
普及指導 内容	<p>○雑穀メニューを町内に普及するとともに、飲食施設等での提供につなげるため、飲食施設や関係機関を対象に「雑穀レシピ調理講習会」を開催した。</p> <p>○参加者は料理専門家の矢野邦子氏が考案した「たかきびのおむすび」「こきびのマカロニグラタン」「はなこのバスクチーズケーキ」の調理方法を学び、試食及び意見交換を行った。</p> <p>○当班からは、雑穀の利活用の現状及び機能性について説明を行った。</p>			
結果と 今後	<p>○参加者からは「調理が簡単で様々なアレンジができそう」「ビーガン向けメニューの展開も可能ではないか」などの意見があり好評であった。</p> <p>○今後も雑穀の新規需要の創出やメニュー提供施設の増加を図ることで、雑穀の消費拡大及びPRに努める。</p>			
				
雑穀レシピの調理講習		こきびのマカロニグラタン		

標 題	町内小学生が雑穀料理にチャレンジ		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和8年1月30日	場所	久万高原町立父二峰小学校	
指導対象	小学校児童、教諭及び関係機関 (24人)	連携 機関	久万高原町 久万高原町生活研究協議会	
普及指導 内容	<p>○久万高原町生活研究協議会は、父二峰小学校の児童及び教諭等を対象とした食育教室（えひめ食文化普及講座）で、「たかきびのおむすび」や「たかきび団子のミネストローネ」の調理実習を行い、雑穀の食文化の継承と普及を図った。</p> <p>○当班からは、雑穀に関する資料により、雑穀の栽培や活用について紹介した。</p>			
結果と 今後	<p>○参加した3～6年生の児童は3班に分かれ、たかきびを使ったおむすびやミネストローネの調理と試食を行い、雑穀食文化への理解を深めた。</p> <p>○生活研究協議会では新たに開発したレシピによる雑穀料理を食育教室に取り入れることで、若い世代への雑穀食文化の継承を推進しており、当班は関係機関・団体と連携のうえ支援を行っていく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：食育教室での調理実習</p> <p>右：たかきび団子のミネストローネ</p> </div> </div>				

標 題	伊予農業高校と連携した「さくらひめ」PR 活動		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年1月17日	場所	フジグラン松山	
指導対象	—	連携 機関	伊予農業高校	
普及指導 内容	<p>○「さくらひめ産地強化事業」の一環として、「さくらひめ」の更なる認知度向上と需要喚起を目的としたPR活動をフジグラン松山において実施。</p> <p>○伊予農業高校と連携し、園芸流通課の生徒14人が制作した11個のアレンジメント作品を展示するとともに来場者による人気投票を行った。</p>			
結果と 今後	<p>○当日は、来場者322人が展示作品を熱心に観覧して好みの作品を選ぶなど盛況であった。</p> <p>○来場者からは「高校生らしさを感じられる素敵な作品でとても癒された」「さくらひめと他の花とのアレンジも良い感じ」「贈り物のほか、ブライダルや卒業式、送別会などの会場アレンジとして活用するイメージが広がった」などの感想があった。</p> <p>○引き続き、生産技術指導と合わせて、幅広い世代での認知度向上と消費拡大につながるPR活動を展開し、生産者の収益向上を目指す。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <p>展示会場</p> <p>人気投票1位の作品</p> <p>作品を観覧する来場者</p> </div>				

標 題	宇和島市女性農業者グループが SNS 活用研修を実施		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年1月12日	場所	山本いちごファーム(宇和島市津島町)	
指導対象	女性農業者グループ(5人)	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○宇和島ルリアン(宇和島市の女性農業者グループ)は、農業等の魅力を配信し南予地域への集客力アップにつなげようと、SNS活用研修を開催した。</p> <p>○当室がサポートし、異業種ではあるもののInstagramで魅力あるリール動画を配信している女性講師を招き、リール動画の撮影から編集、アップまで指導した。</p>			
結果と今後	<p>○会員からは、「実践的な研修で、早速リール動画をアップすることができた」との意見があり好評であった。</p> <p>○次年度も「ひめの国一次産業女子活躍推進事業」を活用したいとの要望があったことから、事業活用できるよう引き続き支援していく。</p>			
			研修会の様子	

標 題	地元の理解が得られ、水路改修等が事業化へ！		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和8年1月8日、14日	場所	鬼北町好藤公民館	
指導対象	鬼北町内深田地区関係農家等(20人)	連携機関	鬼北町、南予地方局農村整備課	
普及指導内容	<p>○鬼北町内深田地区では、水路改修やパイプライン化、自動水管理システムの導入を検討してきたが、地権者の費用負担と耕作者の作業負荷等の理由で、これまで事業化には結び付いていなかった。</p> <p>○そこで、農業競争力強化農地整備事業等を活用し地権者負担を抑えた水路改修案と、乾田直播や特産品のゆず、かぼちゃといった省力型品目の導入による持続可能な農業経営モデルを提案した。</p>			
結果と今後	<p>○地権者からは費用負担の解消による早期着工を望む意見や、耕作者からは水管理の労力軽減に大きな期待が寄せられるなど、事業化への合意を得ることができた。</p> <p>○今後は、地元の理解を基に事業計画の細部を精査し、農村整備課をはじめとする関係機関と密に連携しながら、本事業の確実な実現を目指していく。</p>			
			<p>左：パイプライン用自動水管理装置の説明</p> <p>右：内深田地区の事業実施前後の担い手等への農地集積や営農作物の確認と水路等改修事業の打合せ</p>	

標 題	ニホンザルの大型捕獲檻を設置		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和8年1月15日	場所	松野町豊岡地区	
指導対象	—	連携機関	松野町、NPO 法人森の息吹	
普及指導内容	<p>○当地区はニホンザルの群れが出没し、野菜を中心に被害が発生していることから、県の鳥獣害防止新技術等実証展示事業を活用して、大型捕獲檻と遠隔装置を利用した捕獲に取り組むこととなり、連携機関と檻の設置を行った。</p> <p>○設置した檻は、遠隔で監視し、落とし扉を作動することができるため、効果的な捕獲が可能となる。</p>			
結果と今後	<p>○檻の設置作業中に、付近の茂みを悠々と通過するサルの群れが目撃される等、設置場所がサルの活動領域と重なっていることが確認できた。</p> <p>○しばらくは餌付けを継続し、一定の個体数の檻への侵入が確認できれば連携機関が捕獲を実施し、個体数の減少を図る。</p>			
		<p>左：大型捕獲檻の設置作業 右：温州みかんによるサルの餌付け</p>		

標 題	農福連携の拡大を目指し交流セミナーを開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和8年1月27日	場所	JA えひめ南南宇和営農センター	
指導対象	愛南町農林課、JA えひめ南南宇和営農センター職員（8人）	連携機関	愛南町、JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○農福連携への理解促進のため、関係機関職員を対象に町内で農福連携に取り組む就労支援事業所「南生」職員を講師に招き、交流セミナーを開催した。</p> <p>○事業所自らが、水稻、野菜、アボカド、ユーカリ、かんきつ栽培をはじめ農林水産業に広く貢献していることや、農福連携活動の現状について研修した。</p>			
結果と今後	<p>○すでに3農家のかんきつ収穫作業受託の実績があるものの、事業所の職員が不足しており、今後の拡大が困難である現状が理解できた。</p> <p>○今後も農福連携の理解促進や取組拡大を目指し、関係機関との連携を継続する。</p>			
		<p>左：セミナーの講師（右） 右：熱心にセミナーを聴講</p>		

標 題	南宇和高校2年生を対象に就農候補者研修会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和8年1月28日	場所	みかん研究所、企業組合津島あぐり工房あすも	
指導対象	南宇和高校農業科2年生(16人)	連携機関	愛南町、JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○農業を将来の職業選択の一つとして位置付けてもらうことを目的に、愛南町農業支援センターと協力し、新規就農候補者研修会を開催した。</p> <p>○みかん研究所では、新品種育成や気候変動に対応したブラッドオレンジの栽培、津島あぐり工房では、食文化の継承の理念やブレずに取り組むこと、成功するための4つのJ（情熱・人脈・人格・持続）等を学んだ。</p>			
結果と今後	<p>○かんきつ王国を支える基礎研究に関心を示した生徒がいるとともに、農業は栽培するだけでなく加工・販売・地域づくりに広がる可能性があることを知り、農業への関心が高まった。</p> <p>○引き続き、関係機関と協力しながら農業の魅力発信を行い、将来の就農やUターンにつなげていく。</p>			
				<p>左：新品種育成ほ場視察 (県みかん研究所)</p> <p>右：企業組合津島あぐり工場の取組紹介</p>

標 題	媛小春の収穫進む！安定生産へ実証も進む！		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年1月6日、14日	場所	宇和島市吉田町	
指導対象	媛小春生産者（3人）	連携機関	-	
普及指導内容	<p>○安定生産技術の確立に向けて、様々な実証を重ねている「媛小春」の収穫が最盛期を迎えている。</p> <p>○春先の着花量が少なかったものの、生産量は例年並みと予測される。</p> <p>○夏枝の結果母枝としての有効性を検証するため、令和6年と7年秋に、実証ほ2園地において、夏秋梢発生部位単位で1～2本残した区と全て落とした区を設置しており、同園地で収量調査を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○前年の夏秋梢に多数の結実が認められ、結果母枝としての有効性を確認した。</p> <p>○生産者からは、「夏秋梢の果実は、果皮が滑らかで品質も良い」と果実品質においても評価が高い。</p> <p>○今後も夏秋梢の利用が連年安定生産につながるか検討するとともに、生産者と連携して実証に取り組み、安定生産技術の確立を目指す。</p>			
		 <p>処理前</p>		<p>左：夏秋梢への着果状況</p> <p>右：複数発生している夏秋梢は、水平から少し上向きの枝を1～2本残す</p>
		 <p>処理後</p>		<p>【夏秋梢とは】</p> <p>主に夏から秋にかけて発生する枝。とくに着果の少ない樹や樹勢が強い樹でよく発生する。</p>

標 題	道の駅みま野菜売りにニューフェイス登場		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年1月15日	場所	宇和島市三間町	
指導対象	道の駅みま出荷部会員（4人）	連携機関	道の駅みま、トキタ種苗株式会社	
普及指導内容	<p>○直売所を中心とした地域農産物の生産振興を図るため、6月に講習会を開催し新規導入を推進していたイタリア野菜（カリフローレ、カヴォレッティ等、計4品目）の出荷が本格化。</p> <p>○そこで、生産者に対し調整方法を指導するとともに、売り場に美味しい調理方法のポップなどを提供することで、販売促進を図った。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは「想定より人気があり、売れ行きも良い。</p> <p>○引き続き出荷に取り組んで、来年も栽培したい」と前向きな意見を確認。</p> <p>○今後は地元種苗会社を含む関係機関と協議を進め、特色ある夏秋品目を選定し、2月下旬から3月上旬にかけて栽培講習会を開催する予定。</p>			
		<p>左：売り場では、簡単な食べ方等のポップを活用</p> <p>右：今冬の新規品目・カリフローレ</p>		

標 題	一次産業女子が先進技術を学ぶ！		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和8年1月15日	場所	みかん研究所	
指導対象	∞農 Harvest（3人）	連携機関	みかん研究所	
普及指導内容	<p>○八西地区の一次産業女子で構成する∞農 Harvest（会員18名）は、グループ活動の一環としてみかん研究所で視察研修を実施した。</p> <p>○室内研修では、農研機構が開発したアプリ（QRコードで生育データやかん水の要否が判断できるソフト）による管理技術を中心に学んだ。</p> <p>○また、ほ場を視察しながら、日頃の栽培の課題や疑問点についてアドバイスを受けた。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は最新技術や品種等の理解を深め、自身の経営の参考にしていた。</p> <p>○当室では、今後も農業技術・経営、女性活躍・交流などの多様なグループ活動を支援し、一次産業女子の資質向上とそれぞれの経営力の強化につなげていく。</p>			
		<p>左：室内研修</p> <p>右：ほ場での栽培に関する質問</p>		

標 題	農福連携を推進！		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和8年1月20日	場所	西予市教育保健センター	
指導対象	管内福祉事業者、生産者等（13人）	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○当室では、農業と福祉の連携について理解を深めるため、八幡浜支局農福連携交流セミナーを西予市内で開催した。市・JA等関係者約30人が参加。</p> <p>○当日は、西予市野村町で農福連携に取り組む株式会社ノムランドと、JA全農えひめからの事例発表や、農業版ジョブコーチの育成を目的にVRを使った農作業事故疑似体験やアシストスーツ体験を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「セミナーを通じてこれまで以上に農業・福祉双方の課題について理解を深めることの重要性を感じた」といった意見が聞かれた。</p> <p>○今後も、それぞれの立場から、農福連携推進の課題解決に向けて方策を考えていく機会を創出し、農福連携を推進していく。</p>			



左：全体研修会

右：VRを使った農作業事故疑似体験

標 題	落葉果樹の安定生産に向けてせん定指導		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和7年12月～令和8年1月	場所	大洲市全域、内子町大瀬	
指導対象	JA愛媛たいき柿部会（83人）、 栗部会（136人）、梨部会（6人）	連携機関	JA愛媛たいき	
普及指導内容	<p>○当班は、各落葉果樹生産部会が開催する講習会で、品質向上や収量確保を図るためのせん定方法について実技指導した。</p> <p>○近年の極端な高温の影響から、柿「富有」では日焼け果や果実軟化、梨ではみつ症などが増加しており、整枝せん定により果実が直射日光を受けにくい枝配置にすることが重要となっている。</p> <p>○柿は、果実の重みで下垂れするような、勢いが中庸の結果母枝を中心に残すこと、梨は、果実が葉陰に隠れやすくなるよう枝数をやや多めに残すこと、栗は、下枝を充実させるため、樹全体に光が当たるよう縮間伐すること等を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○会員は「変動の激しい異常気象に対応するため、従来の方法を見直し、園地や樹の状態に応じたせん定を心掛けたい」と意気込みを語った。</p> <p>○また、会員同士で活発に意見を交わすなど、技術研鑽に励む様子がみられた。</p> <p>○当班は、引き続き各栽培講習会等による技術指導を通じて産地の安定生産を目指す。</p>			



右：柿のせん定を実技指導

左：せん定後に意見を交わす栗

標 題	農業女子グループが他グループと交流研修		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和8年1月15日	場所	狩江地域づくり活動センター、かんきつ園現地、かあちゃん工房他（西予市明浜町狩江）	
指導対象	フレッシュあぐり媛～YATTE-MIYO☆LAB～（5人）	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○当班は、西予市内の農業女子グループ「フレッシュあぐり媛～YATTE-MIYO☆LAB～」が活動の一環として企画・開催した他地域の農業女子グループとの交流研修会を支援した。</p> <p>○今回は、9月に訪問・交流した東予地域の農業女子グループ「たべとうみん」を西予市明浜町に迎え、郷土料理づくりやかんきつ収穫などの現地体験や、加工場視察による交流を行った。</p>			
結果と今後	<p>○今回の研修を通し、両グループ会員が明浜地域の活性化への取組みを学ぶとともに、グループ間の情報共有と相互交流を図ることができた。</p> <p>○当会員が「たべとうみん」会員の栽培した農産物を加工品として開発する案も検討されるなど、地域を超えた交流や新たな活動が期待できる場面もあった。</p> <p>○当班は、今後も農業女子グループ会員の資質向上に向けた取組みを支援する。</p>			
				<p>左：郷土料理体験の様子 右：かんきつ収穫体験での収穫方法説明の様子</p>

標 題	東京で「媛小春」をPR販売		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室 南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年1月21日～27日	場所	香川・愛媛せとうち旬彩館	
指導対象	「南予の媛小春」魅力アップ協議会員	連携機関	「南予の媛小春」魅力アップ協議会	
普及指導内容	<p>○認知度向上と販路拡大による産地の発展を目指し、東京にある本県アンテナショップにおいて「媛小春」のPR販売を支援した。</p> <p>○当室では試食アンケート調査を行うとともに、販促グッズの配布や「こみきゃん」写真撮影会などにより売り場を盛り上げた。</p>			
結果と今後	<p>○試食アンケートの結果、95%が美味しいとの高評価で「驚きの甘さと濃いうまみにびっくりした」「食べたら黄色がいい印象が変わった」などの声も聞かれ、予定していた販売数量450袋（1袋5個入り1,296円）が早々に完売した。</p> <p>○一方で認知度は10%（前年8%）と引き続き低いことから、今後、一層の認知度向上に取り組むとともに、消費者の高評価を生産者へフィードバックすることにより、生産拡大を進める。</p>			
				
試食の配布		アンケートを実施		こみきゃん写真撮影会

標 題	データ駆動型施設野菜栽培実証事業に係るトマト・きゅうり栽培管理講習会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和8年1月14日	場所	モデル農家ほ場、彩映あさくら、東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	モデル農家、JA 営農指導員、普及職員等 (50人)	連携機関	株式会社誠和、JA、普及拠点等	
普及指導内容	<p>○低コスト環境計測機器で収集したデータを環境制御に活用するため、トマト・きゅうり栽培管理講習会を開催。</p> <p>○株式会社誠和。から講師を招き、「データをもとにしたかん水管理～日射管理の基本～」と題し、日射量が増える春先のかん水管理やデータに基づいた環境制御について講演を行った。</p> <p>○また、モデル農家2名（トマト・きゅうり）のほ場で現在の生育や管理の状況を踏まえた指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「ほ場を見ながら指導を受けられるため分かりやすい」「自分のほ場でも環境計測機器を導入してみたい」との声が聞かれ、環境制御への機運を高めることができた。</p> <p>○今後も、環境計測機器のデータや生育調査の結果に基づき、栽培指導を行う。</p>			
				<p>左 現地講習会（トマト）</p> <p>右 現地講習会（きゅうり）</p>

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町久万 571-1 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543